B 17 鹿児島県で採集されたダニ類からの紅斑熱群リケッチア DNA の検出

○野田伸一（鹿大・多島圏研究センター）・山本進（鹿大・医・衛生）

Ditection of spotted fever group rikettsiae DNA form ticks in Kagoshima Prefecture

Noda S. and Yamamoto S.

鹿児島県での日本紅斑熱患者は県東部の大隅半島地域で発生し、平成 12 年に 5 名、平成 13 年に 11 名が報告されている。鹿児島県の患者発生地域で採集したダニ類から PCR 法によって紅斑熱群リケッチアの媒介ダニ類の検索を行った。ダニ類は鹿児島県の垂水市仁川、輝北町牛根峠・荒平、鹿屋市大隅湖・上高隈・大野原、大根占町神川・宿利原で旗振り法で採集した。採集されたダニ類は、フタトゲチマダニ（283 匹）・キチマダニ（222 匹）・タカサゴチマダニ（52 匹）・ヤマアラシチマダニ（21 匹）・タネガタマダニ（9 匹）・ヤマトマダニ（2 匹）タカサゴキラマダニ（31 匹）であった。PCR 法は Furuya(1995)に従い、ダニ類 620 匹について紅斑熱群リケッチアと日本紅斑熱リケッチアの遺伝子の検出を行った。その結果、キチマダニ雌成虫 1 匹と若虫 10 匹の 1 プールから日本紅斑熱リケッチアの遺伝子が検出された。

B 18 シュルツェマダニ成虫の行動休眠覚醒における温度と日長の影響

藤本和義（埼玉医大、免疫）

Effects of temperature and photoperiod on the termination of the behavioral diapause of *Ixodes persulcatus* adults

Fujimoto K.

シュルツェマダニ成虫は、脱皮後行動休眠に入り、およそ10ヶ月後の春に覚醒する。しかし、休眠覚醒の方法については、知られていない。一般に昆虫類の休眠は温度や日長の変化によって覚醒することが知られている。そこで、シュルツェ成虫の休眠覚醒におけるこれら気象要因の影響を調べてみた。休眠覚醒の観察は半野外的条件下に置かれたプラスチック円筒内で行った。16L-8Dの長日条件で育った成虫は春になっても活動はみられなかった。また、長日条件で育った成虫に低温処理（4℃）を行っても活動はみられなかった。しかし、長日条件で飼育後、12L-12Dの中間日長に置かれた成虫は春から活動がみられた。これらの結果はシュルツェ成虫の休眠が中間日長によって覚醒したことを示唆する。秋の日長はシュルツェ成虫の休眠覚醒に重要な役割を演じていると思われる。